

平成 2 1 年度学校評価表

1 学校教育目標
県立学校における教育指導の重点や取組の方向等に則り、「地域に根ざした活力ある学校」～いつまでも心に残る一番大切な学校～を、目指す学校像とする。

2 本年度の重点目標
(1) 授業の充実 思考力・判断力・表現力等を確実にほぐくむために、わかる授業を一層推進し、学習意欲の向上を図り、学習習慣を定着させ、自主的・意欲的に学習する生徒を育成する。
(2) 生徒の進路保障 高い志をもって自己実現を果たすため、体験的な学習やキャリア教育などを通し、進路目標を明確に持たせ、自らの未来を切り拓く生徒を育成する。
(3) 人権文化の創造、道徳教育の充実 社会生活を送る上で人間としてもつべき最低限の規範意識を、発達の段階に応じた指導や体験を通して確実に身に付けさせるとともに、人間としての尊厳、自他の生命の尊重や倫理観などの道徳性を養い、豊かな人権感覚を身に付けた生徒を育成する。
(4) 環境教育の充実 現在、地球規模で発生している環境問題について、その原因・実態・防止策などを認識させ、普段から環境問題の重大性を意識できる生徒を育成する。

3 自己評価総括表						
	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	学校組織力の向上	校務分掌や委員会が連携しながら教育目標を達成しようとしているか	自己評価制度を積極的に機能させる。	適宜面談を実施し、達成状況を確認する。	B	毎週運営委員会を実施し、分掌間の連携を図った。自己評価シートに設定した自己目標を年間を通して意識するようにする。
	教職員の資質向上	質の高い授業を提供しているか 最新の教育的課題を踏まえた教育実践をしているか	教科指導力を向上させる。 校内外の研修に積極的に参加させ、職能成長を高める。	相互評価、日常的参観 計画的な職員研修、対外研修成果の校内報告・実践	B	参観授業週間を2回実施した。ICTを活用した授業に取り組んだ。ほぼ毎月職員研修を実施した。研究授業月間を更に充実させる。
	個に応じたきめ細かな指導	生徒一人一人に応じた効果的な支援をしているか	日常的に情報を共有し、生徒の課題を見極めた効果的な指導を組織的に実践する。	生徒理解研修 グループウェアを活用した生徒理解	B	生徒理解研修を学期ごとに、また教育支援会議を6回実施した。考査ごとに学習会を実施した。進学課外を実施したが、更に上級学校進学希望者に個別の支援をする。
	開かれた学校作り	積極的に情報を発信し、説明責任を果たしているか	学校の状況・生徒の活躍等を外部に積極的に発信す	学校HPの更新 学級通信 「広報たか」	A	学校HPを1月現在19回更新した。「広報たかもり」「広報南阿蘇」に

	学校関係者の評価を教育活動の充実に生かしているか	る。指摘内容を検討し改善に生かす。	もり」等保護者アンケート、学校評議員会		生徒の活躍等を積極的に掲載した。「後援会便り」を地域に回覧した。学校評議員会、学校関係者評価委員会における意見を改善に生かした。役員以外の保護者の意見も積極的に汲み取る。	
	保護者や地域との連携	学校教育や行事等に関する効果的な情報発信をしているか	体育大会、文化祭、くまもと教育の日の行事における昨年度以上の参加を目指す。	迅速で適切な情報の提供、PTAや同窓会との連携	A	体育大会、文化祭、教育フォーラムなどへ昨年度以上の参加があった。更に参加者を増やす。
	安全管理の徹底	危機管理意識が徹底され、安全な教育環境が保たれているか	危険箇所を日常的にチェックし改善する。事故や災害等に対して迅速かつ適切に対応する。	危機管理マニュアルを使った研修、安全点検の実施等適切な運用・管理 Q ネットとの連携	B	毎月安全点検を実施し、迅速に改善した。危機管理マニュアルを使った研修は未実施。
学力向上	「生きる力」をはぐくむための教育環境・指導体制の充実	学力向上に向けた授業時間が確保されているか	昨年より30時間以上の授業時間を確保する。	積極的に学校行事の精選をする。出席率・授業出席率を向上させる。	B	授業時間は目標値までの増加はなかったが、学校行事の実施時期等の改善をした。出席率は高いものの学年差があった。
		成績不振生徒に対する支援体制が充実しているか	考査成績の欠点生徒の数を昨年同時期より減らす。	定期考査前の1週間、学習会を実施する。	A	学習会を組織的に実施し、欠点保持者を減少させることができた。
		生徒の学習習慣を定着させるような支援をしているか	生徒に学習習慣が身に付くような課題を課す。	校内検定及び週末課題を毎週1回実施する。	B	校内検定は年間30回実施。週末課題と検定課題により、家庭学習の推進を図った。
		豊かな人間性をはぐくむための体験学習は充実しているか	体験活動を意識的に増やす。	商業科・家庭科による体験活動、健康や体力を培う特別活動	B	ワープロ検定及び食物技能検定の積極的な受検者が見られる等、体験学習の効果が得られた。
		読書の習慣を育成しようとしているか	落ち着いた精神状態で1時間目の教科学習に入る。	「朝の読書の時間」、職員の朗読を実施する。	B	朗読及びアンケート実施等により、生徒の読書に対する意識を高めることができた。
	確かな学力の育成に向けた授業研究	PDC Aサイクルによる授業改善が行われているか	生徒による授業評価を年間2回実施し、授業改善を進める。	シラバスによる指導7月の評価より12月の評価が高まるようにす	A	12月の評価は、20項目中18項目が向上した。予習復習の意識付け及び学習意欲の更なる向上が課題で

		「わかる授業」を目指した授業研究が行われているか	一人一人の習熟度を踏まえた授業を実施する。 研究授業月間、参観授業週間に相互評価することで教科指導力を高める。	習熟度別授業、TT授業	B	ある。 2・3年で習熟度別授業、全学年のOCで定期的にTT授業を実施した。
		習得した知識・技能を活用する授業が推進されているか	知識・技能を積極的に活用する授業の形態を工夫する。	研究授業を年間8回以上、参観授業を年間40回以上実施する。 保護者・地域対象の公開授業を1回実施する。	B	参観授業は目標値を上回り、活性化につながった。研究授業は一部の教科のみの実施で十分ではなかった。 公開授業という形式ではなく、教育フォーラムを新たに企画し、活性化を図った。
		観点別評価が工夫されているか	生徒の実態や各教科の特性に合わせた観点別の評価規準及び評価方法について研究・実践する。	ICT活用型授業、発表・グループ学習等の言語活動の充実を図る授業、教科の枠を越えたTT授業を積極的に実施する。	B	ICT活用型授業を教科担当1名につき1回以上実施した。教科内でのTT授業は実施しているが、教科の枠を越えたTT授業は十分ではなく、教科間の連携が課題となった。
				シラバスによる授業計画及び評価方法の周知、多面的評価	B	シラバスを作成し、授業計画及び評価方法等に関するオリエンテーションを実施した。観点別評価は更なる工夫が必要である。
進路指導	キャリア教育の推進	生徒自らが職業や将来設計について考えているか	体験的活動を通して望ましい勤労観・職業観を育成する。	キャリアガイダンス、インターシップの実施、報告書による事後指導	A	2年生全員がインターシップを経験した。アンケートでは、97%の生徒が進路を考えるきっかけになったと答えた。
	進路意識の高揚	生徒が主体的に進路を選択しようとしているか	2年次3学期までに、就職希望者は具体的業種を、進学希望者は具体的上級学校を明確にさせる。	進路マップ、進路希望調査、二者面談・三者面談	A	進路希望調査を定期的実施し、生徒が進路を考える機会を設けた。2年生については、新たに12月に進路講話を行った。
			最新の進路情報の提供	毎月1回進路便りを発行する。	C	進路便りの代わりに、3年生で進路が決まった生徒に合格体験記を書かせた。後輩の意識付けに役立てたい。もっと多くの情報を進路から発信していきたい。
多様な進路	就職希望者への	3年間を見通	企業訪問、			3年生を対象に企

	希望の実現	指導は適切か	した指導計画に基づき、進路別学習に取り組む。	面接指導 対外模試	A	業訪問を行った。受験先が決まった生徒に対して全職員で面接を行った。
		進学希望者への指導は適切か		個別添削、 対外模試、 上級学校訪問	A	3年生を対象に上級学校訪問を行った。課外受講者は模試の受験を義務づけ、学力向上に取り組んだ。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	時間を守った生活ができているか	一日の遅刻の平均数 0.3 人以内を目指す。	昇降口指導を毎日実施し、月ごとに集計結果を公表する。	A	本年度の平均遅刻者数は 0.25 人/日であった。一昨年度は 3.81 人/日、昨年度は 0.34 人/日であった。年々減少傾向にある。
		服装規定を守った健全な身だしなみであるか	頭髪服装検査における違反者、平均 15 人以内を目指す。	「エチケットカード」に保護者記入欄を設け、連携して指導に当たる。	A	頭髪服装検査における年間平均違反者数は 12.17 人/回であった。昨年度は 18.80 人/回であった。
		元気のよいあいさつをしているか	立ち止まってあいさつができる生徒 60 %以上を目指す。	昇降口登校指導(毎日)と声かけ指導(週1回)を実施する。	A	アンケート結果によると約 8 割の生徒ができていると回答した。社会で通用するためにはまだ努力が必要と回答した生徒は約 7 割いた。
道徳心の育成	健全な規範意識が高まっているか	全校集会において教師の講話を実施する。		在り方生き方に関する講話	A	生活指導全般において大変落ちついてきている。今後は地域の有識者による講話等を積極的に実施していきたい。
	ボランティア活動に意欲的に参加し、社会において果たすべき役割を自覚しているか	参加率 60 % 以上を目指す。		生徒会を中心に準備を行い、その都度出席率を公表する。	A	年間の平均参加率は、82.75%と目標を大きく上回った。
生徒会活動の活性化	学校行事に主体的に参加し、達成感を感じているか	体育大会・文化祭を日曜日開催とし、地域社会から評価してもらう。		体育大会でマスゲームを実施する。文化祭では県立学校実習製品の販売をする。	A	体育大会後のアンケートにおいて「大変良かった」と回答した生徒は 87% であった。文化祭は 72% であった。生徒の達成感と満足感は高かった。
	部活動における学年を越えた交流が活発に行われ、充実感を感じているか	部活動加入率 100 %、体育系部活動加入率 60 % 以上を目指す。		「部活動の日」を毎月 2 回実施する。高校総体・総文後、部活動を再編	B	本年度の部活動加入率は 120 % (体育系 49 %) であった。体育系加入率が伸びなかった。今後ハンドボール部や放送部を新設

	交通安全教育の徹底	交通違反・事故が減少したか	交通違反・事故数が年間10件以内を目指す。	する。 実技講習会（原付免許取得者全員）、原付バイクの安全点検、違反者特別講習会の実施	A	する予定である。 年間の交通違反・事故件数は、5件5人であった。昨年度に比べ違反者数は半減している。
	問題行動の早期発見と徹底指導	生徒が携帯電話のマナーを守っているか	いじめにつながるメールによる誹謗中傷をゼロにする。	規定を明確にし、生徒・保護者連名の誓約書を提出させる。	B	ケータイのメールによる嫌がらせが1件発生した。今後もフィルタリングを奨励するとともにいじめに関する積極的指導を継続的に行っていきたい。
		特別指導の再発防止	特別指導の再発を年間30%以内にする。	特別指導終了後1ヶ月後に三者面談を実施する。	B	年間に特別指導を2回受けた生徒は3人であった。割合にして全体の33%であった。
人権教育	人権感覚の育成	「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができたようになったか	「できるようになった」を50%以上にする。	人権教育ブロック別研究協力校としての諸実践	B	職員のアンケートでは80%が「できるようになった」と回答した。
	推進体制の確立	人権教育の意義や目標が共有化され、組織的に推進されているか	教科等指導、生徒指導、学級経営など、教育活動全体を通じて推進する。	毎週1回推進委員会を実施し、推進上の課題を検討する。	B	ほぼ毎週推進委員会を開催し、アンケートでも81%の職員が「推進されている」と回答した。
特別支援教育	推進体制の確立	特別支援教育の意義や必要性が共有化され、組織的に推進されているか	毎月1回特別支援教育委員会を実施し、対象の生徒に対して連携して指導する。	特別支援教育委員会、特別支援会議の実施	B	特別支援教育委員会は毎月複数回実施できた。支援を要する生徒の具体的な支援策や支援の方向性を全職員へ周知することが不十分だった。
	生徒理解の充実	生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、それに基づいた支援が検討されたか	学期に1回以上生徒理解研修を実施する。	生徒理解研修グループウェア上の日常的生徒観察（気づきメモ）	A	職員研修は十分にできた。複数の不登校生徒へ適切に対応するため、今後も各生徒の状況報告と共通理解が必要である。
	保護者との連携	特別支援教育の意義や必要性が保護者に理解されているか	特別支援教育に関する情報を適切に提供する。	学期ごとに特別支援教育便りを発行する。保護者や外部機関を交えた特別支援会議を実施する。	C	特別支援教育便りを発行し、保護者の気づきを聞き取ったが、関係の保護者との連携に留まり、それ以外の保護者への啓発は不十分だった。
環境	環境保全に	人間と環境につ	環境問題に関	教科等で扱		環境問題に関する

教育	寄与する態度の育成	いて正しい認識を持っているか	して教科を関連させた授業を体系的に行う。	う環境問題に関する教材の一覧を作成する。環境汚染状況調査	B	課題研究（保健）、環境汚染調査（やまびこプラン）等を実施した。一覧を作成し、体系的な環境教育を推進するまでには至らなかった。
		環境保全の重要性を理解しているか	阿蘇の自然を基に環境問題を身近な問題として学習する。	南阿蘇アクティブプロジェクト	A	ゴミ問題、汚水処理、自然環境、水質等の調査を実施した。外部講師による講演も行った。
健康教育	食育の推進	健全な食習慣を身に付けるための学習がおこなわれているか	食育旬間における取組、朝食摂取率 85%以上を目指す。	サツマイモや葉大根の植付・収穫・調理などの体験活動	A	朝食摂取率 86%を達成した。体験活動の更なる充実と保護者への啓発が課題である。

<p>4 学校関係者評価</p> <p>学校関係者評価委員会において、自己評価の結果に関して以下のような御意見をいただいた。（評価された点）</p> <p>(1) 全体としてよく取りまとめられており、学校の教育活動全般について理解できた。</p> <p>(2) 学校運営全般について、よく努力がされている。保護者へのアンケート結果から見ると、評価表の「B」を「A」としていい箇所がある。</p> <p>（課題として指摘された点）</p> <p>(1) 進路指導全般について。大学進学等の進路指導については、1年次から徹底してほしい。就職についても、地元役場に合格できるように指導してほしい。早期離職などの問題が起きないように1・2年次からの面談などを充実させてほしい。身近な卒業生の体験談などを現役生徒に聞かせてはどうか。</p> <p>(2) 地域との連携によく努力しているが、それが十分知られていない面があるので、広報活動に更に力を入れるべきだ。</p>
--

<p>5 総合評価</p> <p>評価項目の大半が「B」評価以上であり、学習指導、生徒指導、進路指導等が、学校全体としてバランスよく機能してきている。</p> <p>(1) 授業の充実については、「分かる授業」を実践し、生徒に基礎・基本を定着させることができた。生徒の学習習慣も確立しつつある。</p> <p>(2) 生徒の進路保障については、進路指導部・学年部が連携してキャリア教育を推進し、今年の卒業生の進路決定率は100%であった。今後1・2年次の早い段階から適切な情報提供に心がけ、国公立大学などの希望にも対応したい。</p> <p>(3) 人権文化の創造については「平成21年度県立学校等人権教育ブロック別研究協力校」としての研究を通して積極的に取り組んだ。道徳教育の充実については、生徒指導部を中心としたきめ細かな取組の結果、生徒の規範意識が向上し、礼節にかなった落ち着いた生活をしている。</p> <p>(4) 環境教育の充実については、特に1年次の総合的な学習の時間（南阿蘇アクティブプロジェクト）において環境保全の重要性を理解させることができた。</p>

<p>6 次年度への課題・改善策</p> <p>(1) 道徳教育に関する全体計画を作成し、体系的に指導をする。</p> <p>(2) 大学進学実績への期待が地域社会にあることを踏まえ、1・2年次からの進路指導を更に充実させる。</p> <p>(3) 地域との連携を今以上に図り、積極的に情報発信をして理解を深める。</p> <p>(4) 自己評価が「C」であった項目については、以下のとおり改善する。</p> <p>ア 最新の進路情報の提供については、係り分担を明確にし、「進路便り」等を発行し、進路意識の高揚につなげる。</p> <p>イ 特別支援教育に関する保護者との連携については、特別支援教育便りを定期的に発行したり、講演会等への参加率を上げたりして、啓発に努める。</p>
--